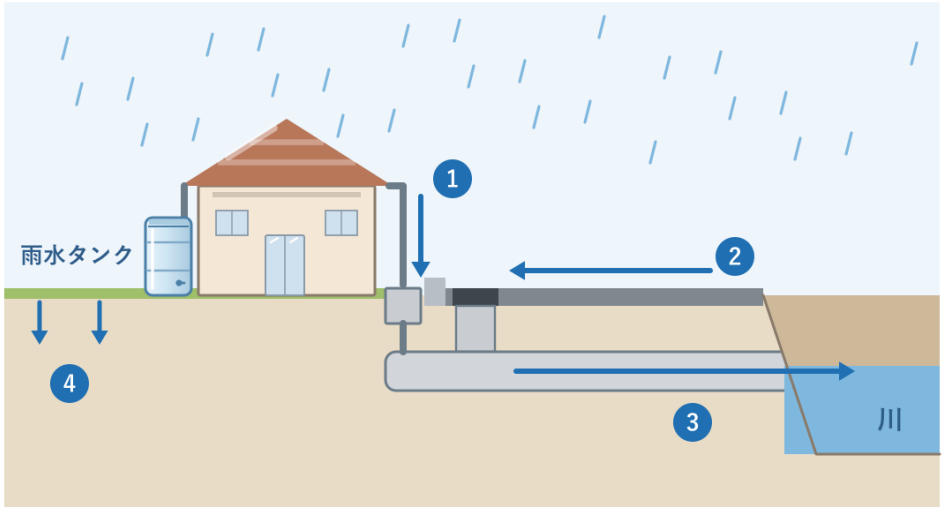
まちに降った雨水のゆくえ

まちに降った雨水は、どこを通ってどこへ行くのだろう

ふだんの雨

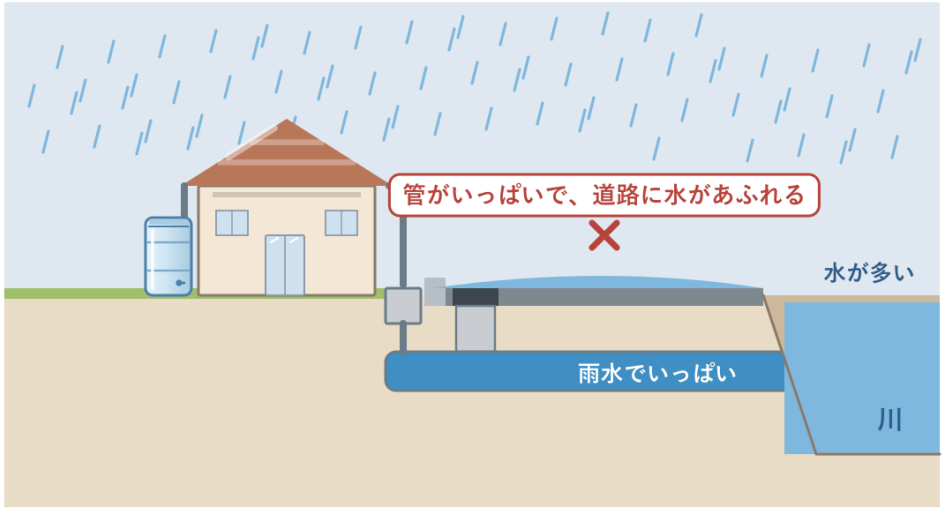


1. 屋根の雨は、雨どいからますへ
2. 道路の雨は、雨水ますへ
3. 雨水管（道路の下）を通って川へ
4. 土の地面にしみこむ

雨水を生かす：タンクにためた雨水を、庭の水まきなどに使う

大雨のとき

自然災害の学習とつながる



まちの対策（例）：川や管に一度に流れこまないようにする

1 地下に一時ためる	2 公園などにためる	3 しみこむ道にする
大きな管や池にためて、後で少しずつ流す	低くした広場や池に一時ためる	水を通す舗装で、地面にしみこませる

理科（4年）で学んだこととのつながり

- 水は、高い所から低い所へ流れる
  → 道路や管は、少しかたむけてつくってある
- 地面のようすで、しみこみ方がちがう
  → 土にはしみこみ、アスファルトにはしみこまない

雨水を流すしくみは、地域でちがう

- この図は、雨水の管と、家で使った水の管が分かれている地域の例（分流式）
- 雨水も使った水も同じ管で下水処理場へ送る地域もある（合流式）。自分の市で調べよう

※ 模式図。まちは架空。管の太さやかたむき、施設の大きさは実際とちがう。